

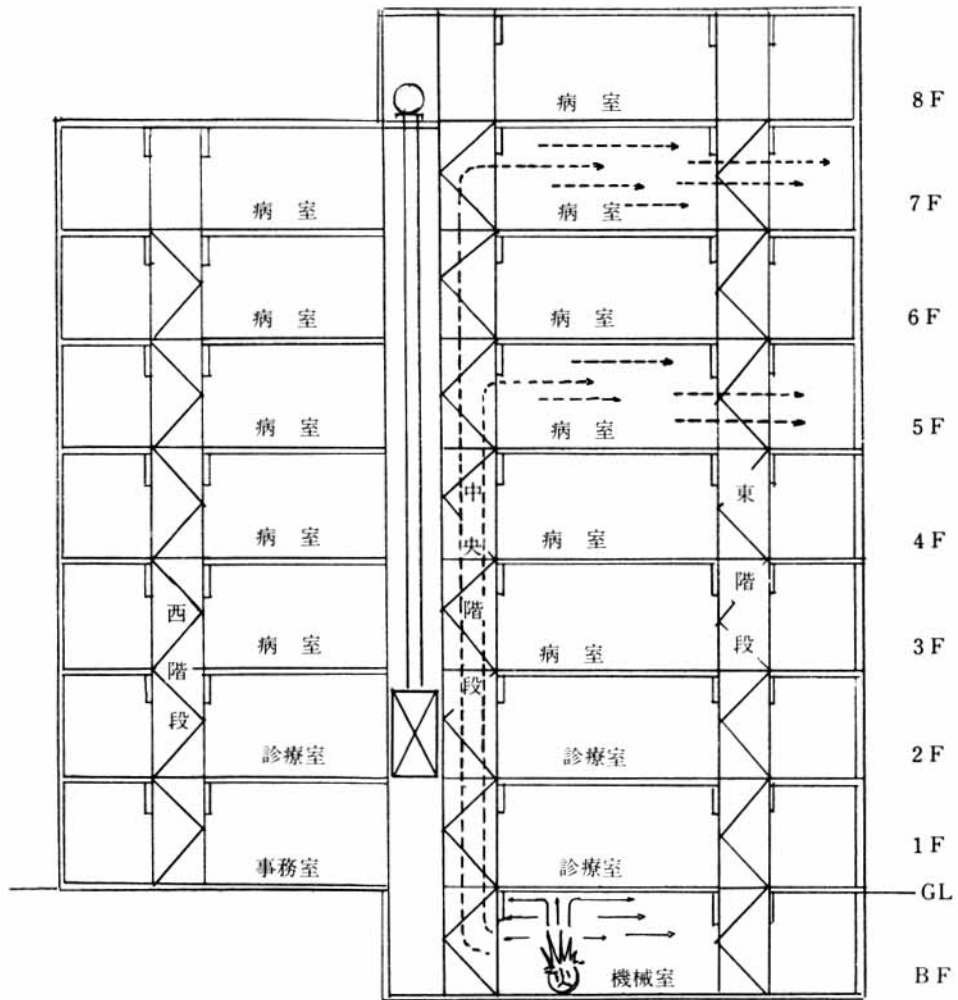
名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造 ・ 階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼 損 面 積) 延 面 積	死 傷 者
愛知県 ガンセンター ----- 名古屋市千種区田代 町鹿子殿81の1159	病 院 (6)イ	昭和50年2月8日	耐火 Ⅲ	全・半・部・小	死者
		出火22時20分ころ 覚知22時24分 覚知別 報知電話 鎮火9日0時06分	建 3,392m ² 延 16,744m ²	81m ² (0.48%)	0名 傷者 0名 ()

I 火災概要								
① 概 要	本火災は、夜出火し、地下機械室81m ² を焼損しただけであったが、迅速適確な避難誘導が行われなかったため、大混乱を起し、消防隊により多数救出されたもので、今後、独力で避難できない患者を多数かかえた病院火災の避難計画について考えさせられた。							
② 階 別 状 況	階	床面積 m ²	焼損床面積 m ²	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等	消防用設備等
	8	884		病 室			東病棟、 西病棟、 中央の3 ヶ所に避 難階段設 置	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 非 放送
	7	1,533		"	49			
	6	1,533		"	95			
	5	1,533		"	90			
	4	1,533		"	86			
	3	1,533		手術室, 治療室				
	2	3,514		医局室, 病理室, 検査室				
	1	3,392		事務室, 解剖室				
	Ⓔ	1,289	81	機械室, 電気室				
	合計	16,744	81		320	0		
③ 出 火 場 所	(階, 室, 部位, 可燃物状況, 居室・非居室, 在・不在) 地下一階機械室中央付近から出火 コンクリート打ちっぱなしの機械室であるが、総延長4,780mに及ぶ空調等配管が施設されていた。				④ 出 火 原 因	不 明		

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<p>(出火部位) (出火室の拡大) (上階への煙の拡散)</p> <pre> graph LR A[地下1階機械室中央付近] --- B[機械室内の配管被覆] B -.- C[中央階段 東階段] </pre>	
	<p>地下1階機械室内の空調等配管被覆を焼損</p>	
<p>○ 延焼拡大した主な理由</p> <p>○ 煙の伝播経路 出火当時、地階、中央階段の防火戸が開放されていたため、煙熱気流が中央階段を上昇し、防火戸の開放されていた5、7階に煙が流入した。また東側階段は防火戸の隙間から煙が進入し、中央階段ほどではないが、やはり避難に使えなかった。</p>		
II 火災建物概要		
① 建 築	<p>着工・竣工又は主たる改築等 資料不足のため不明 () 昭和 年 月 日 () 昭和 年 月 日</p>	
管 理 状 況	② 縦 穴 の 状 況	③ 防 火 管 理 状 況
	<p>階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/></p> <p>エレベーター <input checked="" type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/></p> <p>エスカレータ <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/></p>	<p>○昭和49年度中に通報、消火、避難訓練等を6回実施している。</p>
	資料不足のため不明	
	④ 防 火 区 画 等	⑤ 消 防 用 設 備 等
資料不足のため不明		資料不足のため不明

III 火災後の行動	
① 発 見 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発見者 (当直警備員) ○ 発見の動機 (自火報の鳴動) ○ 発見後の行動 (現場確認に行く)
	<p>当直警備員2名が、1階守衛室で勤務中22時15分ごろ自動火災報知設備の受信機ベルが鳴動し、地下冷凍機室が発報したので、1名が確認に行き、「火事だ」と叫びながら戻ってきた。</p>
② 通 報 状 況	<p>通 報 した <input checked="" type="checkbox"/> (当直警備員) 出火後約(4)分 しない <input type="checkbox"/></p>
	<p>現場を確認に行った警備員が「火事だ」と叫びながら戻って来たので、非常通報機で通報した。その後、非常放送のサイレンを鳴動させ、全館に報知した。</p>
③ 初 期 消 火 状 況	<p>成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> (理由又は状況) 地下1階コントロール室で勤務中のボイラー技師は、配電盤ブレーカーが切断するのを見て、異常を感じ、ボイラー室に向ったが、出入口の扉から煙が噴出していたので、中へ入り東階段出入口の扉を閉めて、ボイラー室南西壁体の窓2箇所ほどを開放して外へ出て、北側のドライエリアから粉末消火器を持って、冷凍機室へ入ったら天井配管の保温材が燃えていたので、数名で消火に当たったが、火勢が強く外へ脱出した。</p>
	<p>消 火 した <input checked="" type="checkbox"/> ○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/></p> <p>消 火 しない <input type="checkbox"/> ○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/> ○ その他 <input type="checkbox"/></p>
④ 消 火 活 動 概 要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 濃煙と熱気により視界不良のため、地下への進入と火元確認が困難を極めた。 ○ 消防隊到着時、5、7階の窓から灰色の煙が噴出しており、多数の入院患者が北側窓から上体をのり出し、助けを求めており、すでにパニック状態にあった。 (患者の無暴な行動をおさえる等、全力を注いで救助活動をしている)

	避 難 方 法	避 難 上 支 障 事 項
⑤ 避 難 状 況	○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (多数人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (10 人) 救助袋 ○窓、開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> (人) ○救 助 <input checked="" type="checkbox"/> (32 人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人)	○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良,機能不良,未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	○ 4、6 階では、看護婦が西病棟へ避難誘導した。 ○ 5 階では、看護婦が部屋で待つよう指示し、担送患者の避難用意をしているうち、脱出できなくなり、患者で西病棟へ避難した者以外は閉じこめられ、消防隊に救出された。 ○ 7 階では、通路の防火戸が閉鎖したうえ煙が充満し、西病棟へ避難できなくなり、動ける者は、救助袋(約 10 名)で避難、担送、重症患者が閉じこめられ、消防隊により救出された。	
⑥ 死 者 の 状 況	健康人 名 (泥酔者 名) 要保護者 名 乳幼児 名 高齢者 名 身体不自由者 名 病人 名	避難上支障となった事項 ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良,機能不良,未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	なし	
IV 問題点・教訓等		
1. 建築上、二方向避難確保されていたが、常時閉鎖であるべき中央階段の 5、7 階防火戸にストッパーをつけて、開放状態のため、煙が進入し、避難に使用できなかった。 2. 担送患者、重症患者に対する安全確保が不十分であった為、最後までとりのこされる等、きわめて危険な状態におちいった。 3. 出火階は、コンクリート打ちっぱなしの機械室であったのに大量の煙が発生した原因は、総延長 4,780m に及ぶ空調等の配管被覆が焼損したため、このような場所では固定消火設備等の自動消火対策や、人命にかかわりのある他用途とは、完全に区画する等の必要がある。		



凡例
 → 延焼経路
 - - - - - 煙の流動経路

